

## 平成17年までの主な流れ

## 高等教育の主な流れ

- ・1959年：工場等制限法（～2002年7月廃止）
- ・1987年6月：第4次全国総合開発計画（目標年次は2000年まで）
- ・大学の郊外移転（1960年代～1990年代）
- ・1997年1月：「平成12年度以降の高等教育の将来構想について」（答申）  
（2000～2004年までの将来構想）
- ・大学の都心回帰（1990年代後半～）
- ・1998年10月：「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（答申）  
（大学改革の4つの基本理念と改革方策）
- ・2004年4月：国立大学法人法
- ・2000年12月：「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」（答申）  
（国際競争力強化の5つの視点）
- ・2005年1月：「我が国の高等教育の将来像」（答申）  
→大学の機能分化

## 大学院重点化からの流れ

- ・1951年以降：新制大学の創設に伴い設置
- ・1988年12月：「大学院制度の弾力化について」（答申）
- ・1991年2月「学位制度の見直し及び大学院の評価について」（答申）
- ・1991年5月「大学院の整備充実について」（答申）
- ・1991年11月「大学院の量的整備について」（答申）  
（2000年までに大学院学生を倍増させる計画）
- ・平成8年10月「大学院の教育研究の質的向上に関する審議のまとめ」（報告）  
（大学院改革の必要性など提言）
- ・1996年度（～2000年度）ポストドクター等1万人支援計画
- ・1999年8月「大学院入学者選抜の改善について」（答申）
- ・2000年度以降 国立大学では大学院重点化に伴う予算上の優遇がなくなる。

## 別の視点からの課題

## 高等教育全体のいくつかの課題

- ・人口減が前提の議論
- ・依然として18歳人口中心のマーケット
- ・国際化へ向けた優秀な留学生獲得
- ・日本の大学・大学院が外国から必要とされているか
- ・高等教育の無償化

## 米国の例

- ・世界から人が集まる大学
- ・企業や社会からのニーズに応える大学
- ・社会での経験を踏まえてからの大学・大学院
- ・履修形態の柔軟性
- ・コミュニティキャンパスによる学修集中

## 大学院のいくつかの課題

- ・従来からの煙突形大学院の問題
- ・大学院の乱立
- ・〇〇大学〇〇学部教授から大学院教授へ
- ・大学院のための補助金
- ・777大学中、627大学に大学院が設置
- ・小規模大学院での高度研究を行うことの困難

## 米国の例

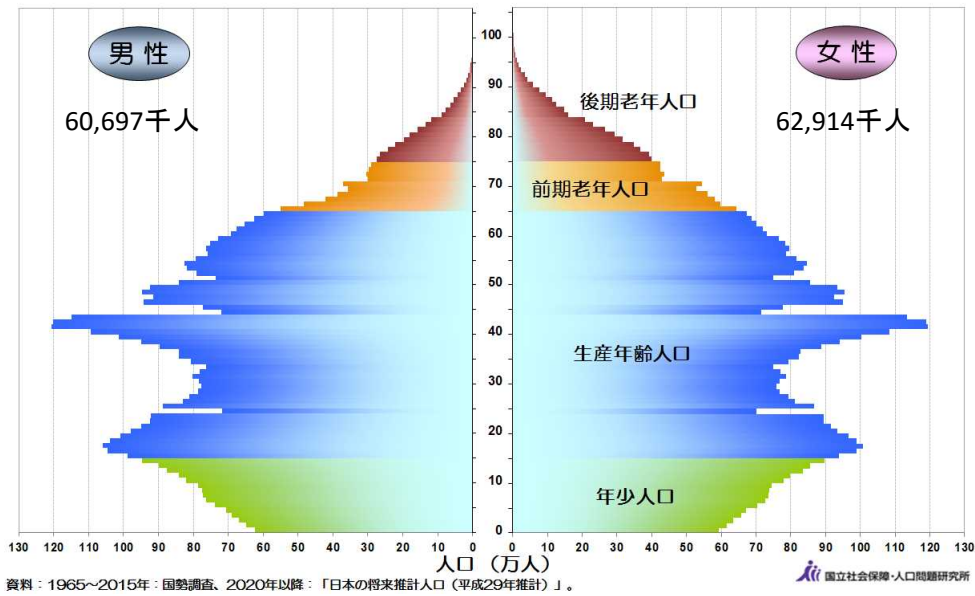
- ・2364大学中、学士課程のみの教育を行う大学がおよそ647大学
- ・米国のリベラルアーツカレッジには、卒業生の約8割が大学院で修士、博士、専門職の学位を取得する大学もある。

## ダイナミックな転換

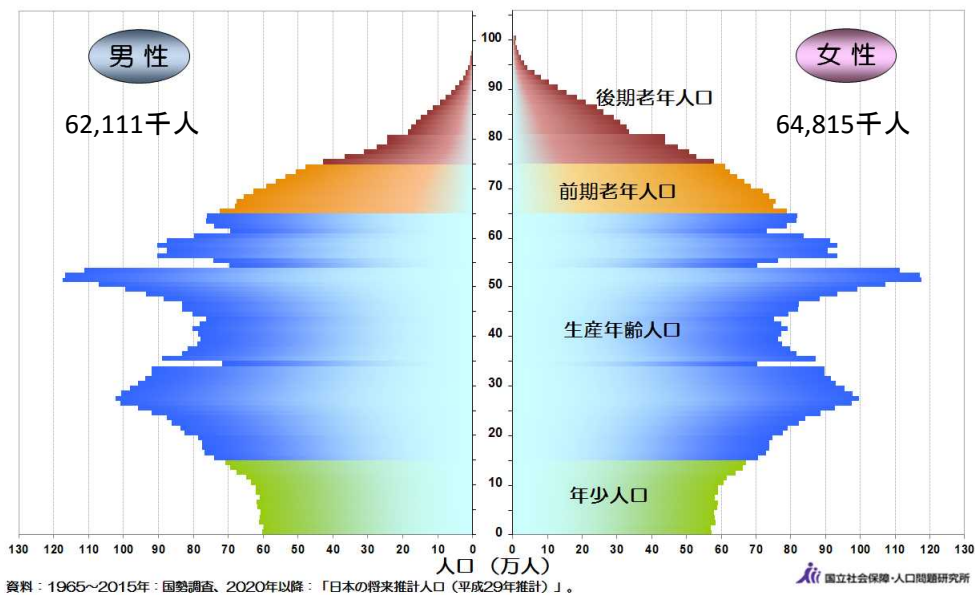
- ・大学院の集中化、国立大学への重点化による国際研究競争力の強化  
（大学の機能分化による抜本的な改革）
- ・私立大学と国立大学の機能分化（つまり、役割分担が必要）
- ・18～22歳をターゲットの中心とすることからの転換。グローバルなキャンパスへ
- ・履修形態、入学時期の柔軟性を高め、外国人留学生と社会人学生が学べる環境へ
- ・キャンパス内で生活をし、学修に集中できる環境のコミュニティキャンパス整備（財源の見直し）
- ・地方大学の活性化とともに、都市圏大学の活性化の必要性

# 【参考】人口ピラミッド1

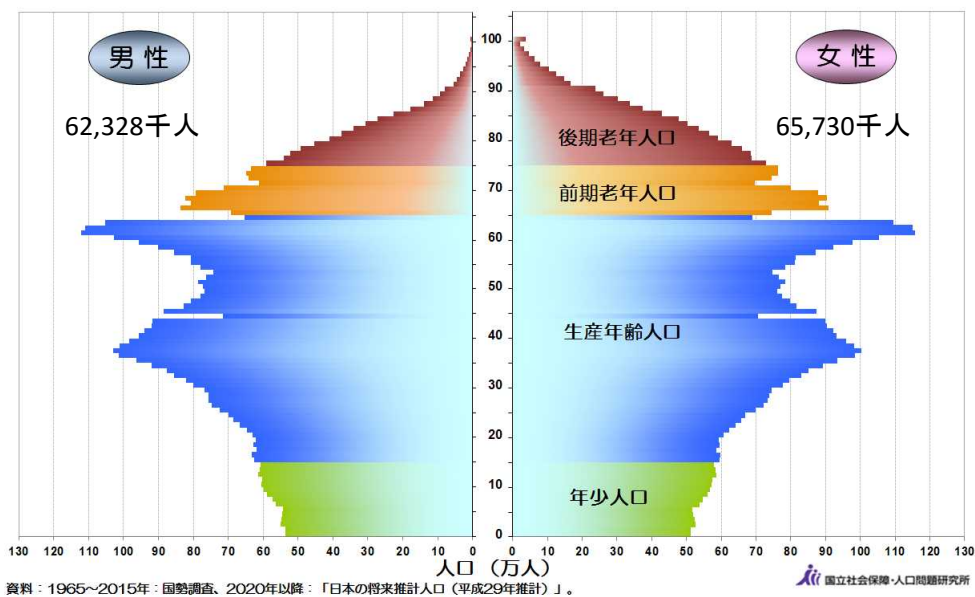
1990



2000



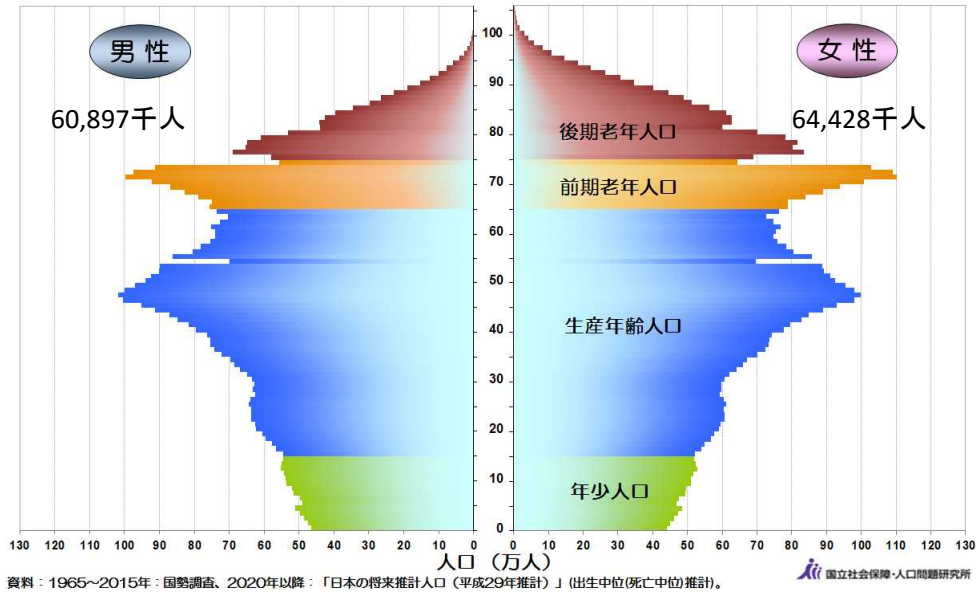
2010



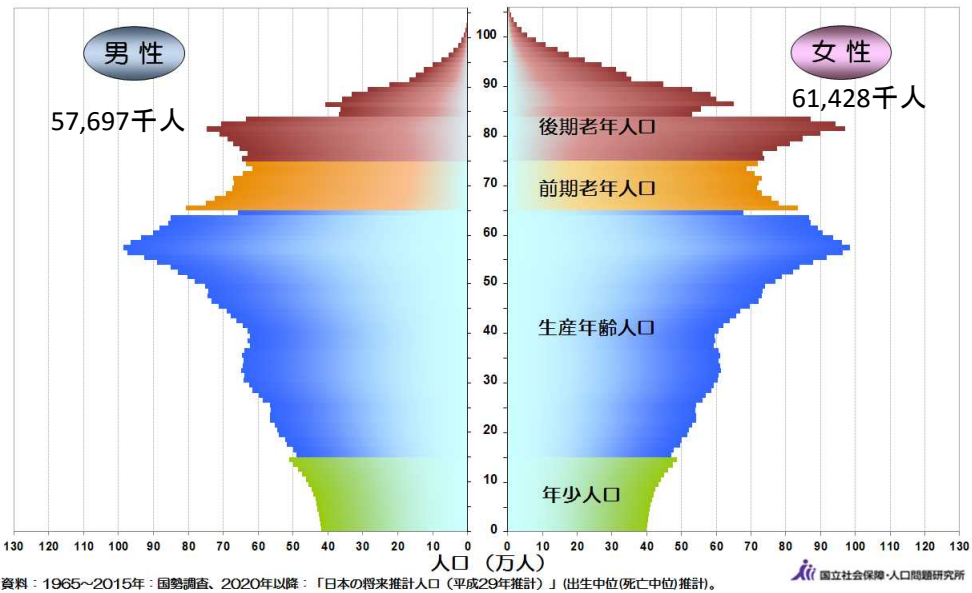
出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<http://www.ipss.go.jp/>)

# 【参考】人口ピラミッド2

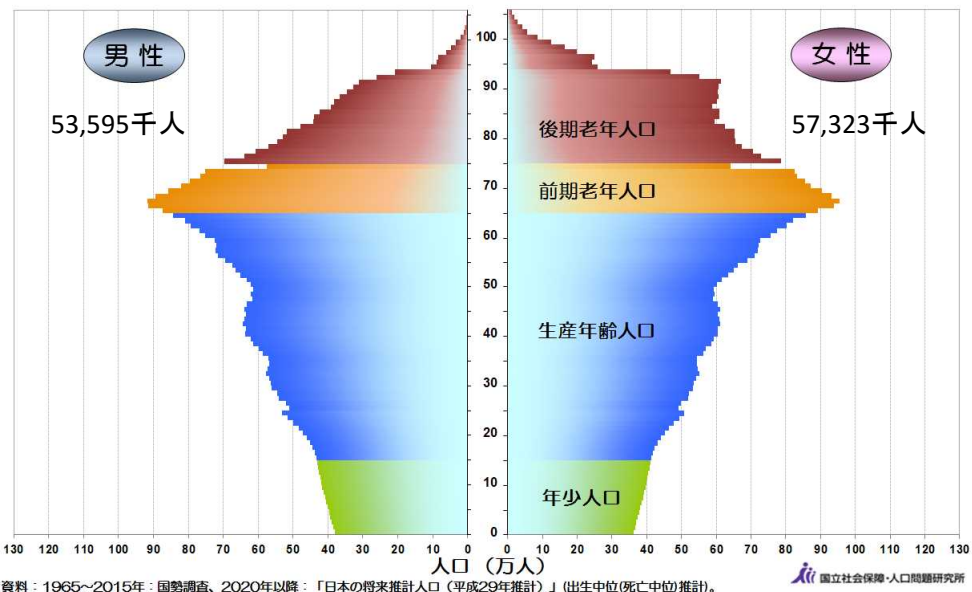
2020



2030



2040



出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<http://www.ipss.go.jp/>)